

# 中小企業設備投資動向調査 [2023年7月調査]

(対象は断りのない限りすべて国内設備投資)

## 調査要旨

### 1 設備投資「有」比率…22年度実績、23年度修正計画ともに前年同期比で増加

設備投資の2022年度実績では、実施（設備投資「有」）企業割合は全体の63.4%と実績として2004年度以来の高水準。また、2023年度修正計画も、設備投資「有」が全体の53.4%と、修正計画時点では2006年度以来の高水準となった。

### 2 設備投資の目的…合理化・省力化、情報化投資が増加

長期での推移をみると、「合理化・省力化」、「情報化投資」が増加を続けているほか、「新規事業への進出」についても2020年度以降増加に転じている。

### 3 設備投資額の増減率…実績は高い伸び、修正計画はやや弱め

全産業の設備投資額の増減率をみると、2022年度実績は2021年度実績対比+18.8%と、2年連続の前年同期比プラスとなり、2013年度以来の高水準となった。もっとも、その反動もあり、2023年度修正計画は2022年度実績対比▲14.4%減とやや弱め。

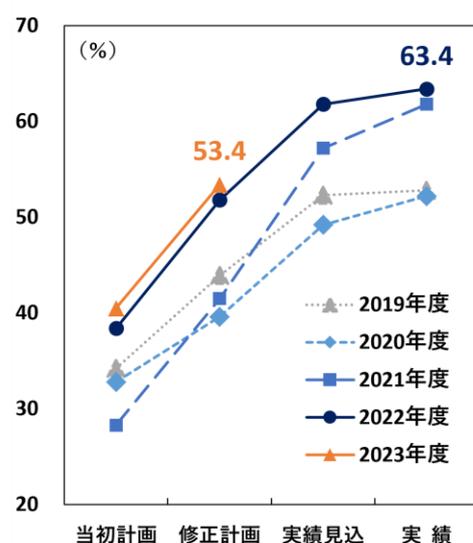
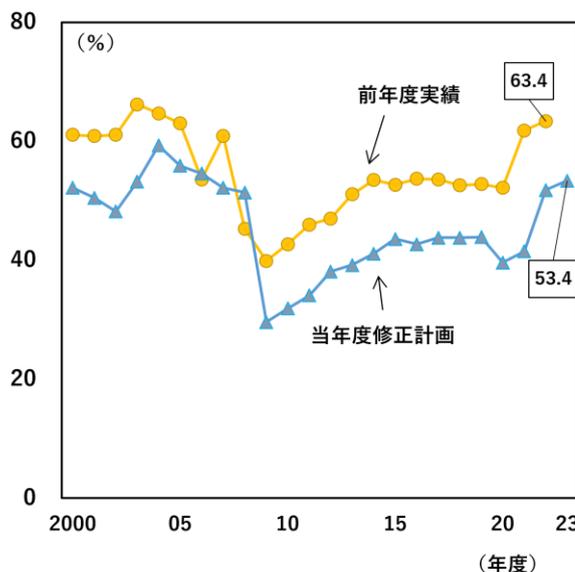
### 4 トピックス：2023年度修正計画の設備投資「有」比率の高さと、設備投資額の弱めの動きの差は、ソフトウェア投資を行う先の増加が一因

設備投資の内容を分析したところ、近年、ソフトウェア投資を行う先の増加が設備投資「有」比率を押し上げていることが判明した。ソフトウェアは土地・建物・機械に比べて、設備を行う1先あたりの投資単価が低いため、「有」比率の高さほどには設備投資額が増えない一因となっているとみられる。

## <設備投資「有」とした企業の割合の推移>

《前年度実績と当年度修正計画推移》

《当初計画→修正計画→実績見込→実績時点比較》



▼詳細は別添をご覧ください。

→ [「中小企業設備投資動向調査 \(2023年7月\)」](#)